



# AJWCEF News Letter

Vol.26 2022 年 11 月

## ご挨拶

皆様におかれましては、平素よりオーストラリア日本野生動物保護教育財団（AJWCEF）の活動にご理解とご支援を賜り誠に有難うございます。

さて、新型コロナウイルス感染症の世界的流行は沈静したとはいいいがたい状況ですが、それに関する様々な規制はかなり緩和され、人の移動や経済活動が再開され始めています。しかし、我々人間は今回のコロナウィルス感染症の問題から重要なこと、「謙虚さ」を学ばなければならないと思います。

人は科学を手に入れ、それを発達させることにより様々な自然現象のメカニズムを解明し、その原理を人の生活向上のために利用してきました。この科学の発達は確かに人類に多くの恩恵をもたらし、その繁栄を支えてきました。しかし一方で、この発達が多くの人の心の中に「人は地球を制御する力を持ち、万物の霊長として地球を支配している。」というような慢心した気持ちを植え付けてしまったのではないのでしょうか。ところが現実には人間の活動に起因すると考えられる気候変動により我々の想像を超える巨大化した台風や大雨などに見舞われ、それを有効に防ぐ手立ても乏しく多くの犠牲をだしています。また、頭脳も持たず、電子顕微鏡でしか見ることもできないほど微細で、宿主の細胞を利用しなければ増殖もできない新型コロナウイルスの感染症でも、現在確認されただけで全世界において六五〇万人以上の方が命を落とし、人々の生活や経済など様々な活動が二年以上も著しく妨げられてきました。このような極端な異常気象や新興感染症による世界的流行は、現代の科学をもってしてもその想定をはるかに超えた状況を作り出したのです。私はこのような人の想定を超えた現象は、地球環境が許容できる範囲を超えた人類による自然環境破壊が引き起こしていると考えています。そして、このような現象は形を変え、また場所を変えていつでも起こりえるのです。これらの事実は現在の人類の能力や知識の限界を示しているように思われます。我々人間はそれをよく認識し、度を越した我が物顔な振る舞いを見直さなければならないと考えます。すなわち、謙虚な姿勢で自然や地球の同居者（野生動物や植物などの地球上の生物たち）に対するべきではないのでしょうか。

AJWCEF はこれからも人と自然のより良い共生を目指し活動してまいります。どうか皆様の末永いご支援をお願い申し上げます。



オーストラリア日本野生動物保護教育財団

理事長 水野 哲男

# 動物大好きな部屋

今回の動物大好きな部屋では、2021 年 4 月に第三子を出産し、育児休暇から仕事に復帰したばかりの AJWCEF スタッフ、Ayako より海洋哺乳類についてのお話しをお届けします！

皆さん、こんにちは！ AJWCEF スタッフの Ayako です。ドルフィントレーナーになるのが夢で海洋哺乳類について勉強した後、オーストラリアでの短期留学がきっかけでそのままオーストラリアに舞い戻り、紆余曲折を経て動物学を勉強後、AJWCEF と出逢い現在野生動物に関わるお仕事をさせていただいています。

今回の「動物大好きな部屋」では、私、Ayako よりオーストラリアの海洋哺乳類についてご紹介させていただきたいと思っています。このお部屋が野生動物との共存について考えるきっかけになったら嬉しいです。

まず初めに、オーストラリアと鯨類についてお話ししたいと思います。

オーストラリアは 1978 年、オーストラリアの捕鯨産業終焉以降、鯨類の保護と保全に努めてきました。現在オーストラリアの海域では約 45 種のクジラやイルカが見られます。地域、国、国際レベルでのこれらの種の保護は、オーストラリア政府の優先事項です。しかし、オーストラリアの海域で保護されているにもかかわらず、クジラとイルカは依然として人間の活動によって脅かされています。

クジラやイルカは海洋哺乳類、つまり、私達と同じく肺で呼吸し、赤ちゃんを産み母乳で育てる恒温動物です。分類学上、イルカといった分類はなく、“クジラ目”の中にクジラもイルカも含まれます。

オーストラリア周辺海域は様々な水棲生物の生息地となっていて、10 種の大型クジラや 20 種の小型クジラ、15 種のイルカ（ネズミイルカ科を含む）を見ることが出来ます。

オーストラリアでは環境及び生物多様性保護法によってオーストラリア周辺海域をオーストラリアクジラ保護区とし、保護区内に棲む全ての鯨類（クジラ・イルカ）は保護されている為、保護区内での鯨類を傷付ける等の行為は罰則の対象となります。

また、その保護法の下、以下の 5 種はオーストラリア国内において絶滅危惧種に指定されています。

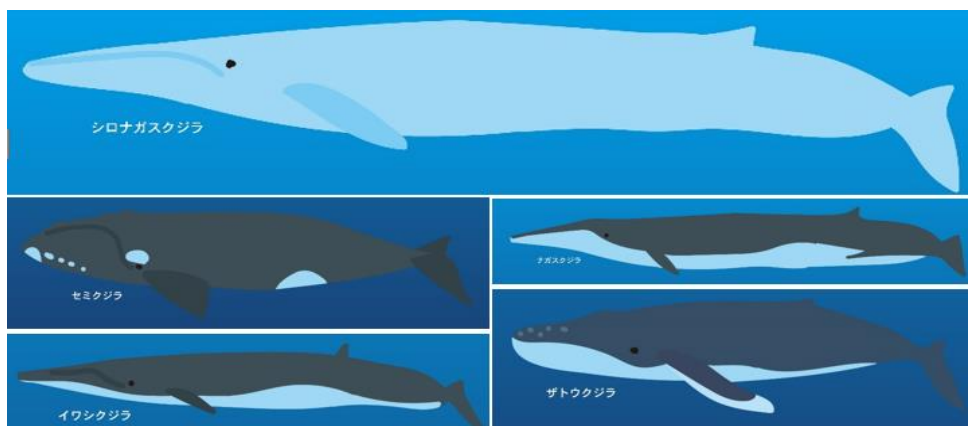
・シロナガスクジラ（絶滅危惧）

・ミナミセミクジラ（絶滅危惧）

・イワシクジラ（危急）

・ナガスクジラ（危急）

・ザトウクジラ（危急）



今回は簡単にオーストラリアと鯨類についてお話しさせていただきましたが、今後、機会がありましたら、オーストラリアで見ることが出来る鯨類について、種別にご紹介出来ればと思っています。

# トレーニングコース 体験記

2020年春の基礎トレーニングコース終了後より、開催の延期を余儀なくされておりました AJWCEF のトレーニングコースですが、この度、2022年8月7日～14日に応用トレーニングコース(13名様参加)、8月29日～9月10日に基礎トレーニングコース(18名様参加)を開催することができました。

渡豪規制の緩和が始まってからの準備の期間が短かったうえに、日本から参加される皆様の安全と健康に細心の注意を払うための工夫も必要でしたが、無事にこれらのコースを終了させることができ、ほんと胸をなでおろしました。ご尽力を頂きましたすべての関係者の皆様にスタッフ一同感謝しております。

そして、ご参加された皆様より、コース終了後に多くのご感想をお寄せ頂きました。下記にその一部をご紹介しますので頂きます。ここの紙面では紹介しきれない多くの感想文は弊財団ホームページよりご覧いただけます。是非、こちらにも目を通して頂けましたら幸いです。

<https://ajwcef.org/experiences/2022applied-training.html>

<https://ajwcef.org/experiences/2022intro-review.html>

今回のコースはコロナの影響で延期になってしまっていたこともあり、2年半越しの、念願のオーストラリアでした。私にとって久々のフィールドワークであり、とても充実した楽しい日々を過ごすことができたのと同時に、実際に自分の目で見たり体験したりして学ぶことの楽しさ・大切さを改めて感じることができました。

—応用コース参加 M.O.



この基礎トレーニングコースを通して、まず最初に、動物公園の飼育動物に対しても、野生動物に対してもオーストラリアでは動物と人との距離がとても近く感じました。その人と動物との距離の近さが一概にいいものとは言いきれないものではないことも学びましたが、野生動物の保護活動や虐待動物などに対する寄付やそれらの世話等を手伝うボランティアの人の多さから動物を身近に感じ、野生動物、飼育動物ともにできる限り幸福に暮らしてもらおうとするオーストラリア人の考え方が感じ取れました。

—基礎コース参加 T.K.



大学のサークルでこのコースの募集が流れてきたため応募させて頂きました。参加者は他校の生徒や社会人の方まで沢山の方々がいて、みんなと友達になれます。実習は日本では絶対に経験出来ないことや生涯経験出来ないことを沢山経験することが出来ます。必ず自分の人生に大きな影響を与えてくれる貴重な、そして楽しい時間になると思います。

—基礎コース参加 大学2年女(20)

オーストラリアの動物や環境に関する仕組みを知る事で、日本の現状を知ることができました。海外のことを知ることで、日本の現状について考えることもでき、また、自分の知識がいかに不足しているかを感じることができました。大学で学ぶことばかりではなく自分から積極的に経験をしたり学んだりしなければならないと強く感じました。

—応用コース参加 S.A.

# 活動報告

2022 年 6 月から 2022 年 10 月末

## オンラインセミナー

| 日時       | 視聴団体         | 演目                                                       |
|----------|--------------|----------------------------------------------------------|
| 6 月 18 日 | 岡山市某私立中学校    | 水野哲男「海洋のごみと海洋生物」                                         |
| 7 月 13 日 | 岡山理科大学       | 水野哲男「海外の NPO 活動について聞いてみよう！ - AJWCEF 野生動物保護活動編-オオコウモリの危機」 |
| 7 月 14 日 | 某女子高等学校      | 水野哲男「海洋のごみと海洋生物」                                         |
| 7 月 26 日 | 岡山理科大学       | クリース悠子「野生馬とオーストラリアンエコシステム」                               |
| 7 月 30 日 | 岡山理科大学       | 水野哲男「海外の NPO 活動について聞いてみよう！ - AJWCEF 野生動物保護活動編-オオコウモリの危機」 |
| 8 月 1 日  | 熊本県 某高校生グループ | 水野哲男「海洋のごみと海洋生物」                                         |
| 8 月 5 日  | 小山市 某中学生グループ | 水野哲男「海洋のごみと海洋生物」                                         |

## オーストラリア スタディープログラム

8 月 7 日～8 月 14 日 日本獣医生命科学大学 クリニカルコース

## AJWCEF トレーニングコース

8 月 16 日～8 月 25 日 応用トレーニングコース

8 月 29 日～9 月 10 日 基礎トレーニングコース



## オンライン 医療専門英会話プログラム (University of Southern Queensland、AJWCEF 共催)

9 月 19 日～9 月 23 日 岐阜医療科学大学

## オンライン交流会

4 月～11 月 オンライン文化交流会 全 14 回 (刈谷高校、ウインダルーバリー高校)

7 月 27 日、8 月 3 日、31 日 科学共同研究会 (刈谷高校、ウインダルーバリー高校)

9 月 13 日、20 日 オーストラリアの現役大学生との交流会 (札幌市立大学)

## 定期オンライン講座

6 月～9 月 TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校 全 15 回

## 寄付

BATS QLD \$200.00

RSPCA \$660.00

AJWCEF の収益金の一部はオーストラリアの野生動物保護団体へと寄付いたしております。

# AJWCEF からのお知らせ

## 2023年春期 トレーニングコースの開催日のお知らせ

臨床トレーニングコース 2023年3月08日（水）～2023年3月16日（木） 10日間

基礎トレーニングコース 2023年3月21日（火）～2023年3月31日（土） 11日間

※応用トレーニングコースについては2023年夏の開催を予定しております

間もなく募集締め切りになります。

参加ご希望の方は詳細をAJWCEFホームページにてご確認ください。

<https://ajwcef.org/>

メールでのお問合せ：training@ajwcef.org



### 英文記事翻訳ボランティア募集中

AJWCEF では啓発活動の一つとして、オーストラリアにおける野生動物保護活動や環境問題に関する情報を日本の皆様にお届けするために、当地にて発信されているニュースを日本語へと翻訳をしてホームページのブログへと記載しています。

具体的な活動内容は、AJWCEF スタッフが日本では滅多に報道されることがないようなレアな野生動物保護や環境保護に関する話題を見つけ、その英文記事をボランティアの方に日本語に翻訳をお願いします。その後、AJWCEF のスタッフより翻訳文のチェックをした後にホームページへと記載いたします。

すべてメールでのやり取りとなりますのでボランティア活動に興味があるが多忙で時間の取りにくい方、英語のスキルを磨きたい方などに最適なボランティアです。ご興味のある方は [info@ajwcef.org](mailto:info@ajwcef.org) までお問い合わせください。

## 会員（個人・法人）募集 及び 支援寄附のお願い

皆さまのご支援が小さな命を助けます。

詳細は、AJWCEFのサイト[www.ajwcef.org](http://www.ajwcef.org)『入会・寄付』のページにお進みください。

ニュースレター発行元

オーストラリア日本野生動物保護教育財団本部事務局

発行責任者 水野 哲男

編集担当 モリス ゆう

ホームページ [www.ajwcef.org](http://www.ajwcef.org)

住所 PO Box 1362 KENMORE,  
QUEENSLAND, 4069, AUSTRALIA

電話 + 61 7 3195 4749